



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 274
2019/11/01

今月の一枚

今月のイベント

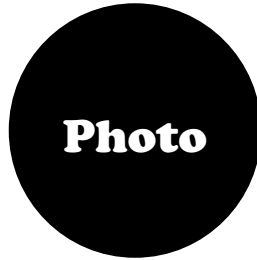
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 落葉する針葉樹
02. ちょい足しのアート



今月の一枚



「ナナカマドの実の食べ頃」

表紙写真・文／城坂結実

網走方面から道道 122 号を進み「みどりの村」と書かれた大看板を目印に曲がると、道の両側にナナカマドが植えられています。

秋に赤く色づくナナカマドの実は、見た目はとてもおいしそう。真っ先に鳥たちに食べられてしまう…と思いきや、冬が深まるまで手をつけられることはありません。

ナナカマドの実には、わずかな毒がありますが、凍ったり融けたりを繰り返すうちに、その毒が抜けるそうです。鳥たちもそれを知っているのでしょうか。

Event. 今月のイベント

企画展「交通安全ポスター展」 11月1日(金)～11月24日(日)

ロビー展「見逃さない! マイクロプラスチックを探せ!!」 11月16日(土)～3月31日(火)

プチ工房「木のカスタネット」 11月13日(水), 15日(金)

博物館講座(歴史編)「石器の傷からみえてくる旧石器時代の生活」 11月16日(土)

Information. 参加者募集

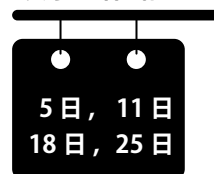
プチ工房「木のカスタネット」

● 11/13(水), 15(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(歴史編)「石器の傷からみえてくる旧石器時代の生活」

【講演会】 ● 11/16(土) 16:00-17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●岩瀬彬氏(首都大学東京) ●申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム



落葉する針葉樹

写真・文／城坂結実



葉が針のように細く尖（とが）っている樹木を、針葉樹と呼びます。マツの仲間や、スギやヒノキもこれに含まれます。北海道は気候的に冷温帯から亜寒帯にあてはまるので、平地でもトドマツやエゾマツのような針葉樹を見ることができます。

針葉樹のほとんどは、冬も葉を落とさない常緑樹ですが、中には秋に葉を落とす落葉性の針葉樹もあります。北海道で見られる落葉性の針葉樹と言えば、真っ先に思い浮かぶのはカラマツでしょう。カラマツは、日本でしか見られない固有種で、北海道にはもともと自生していない樹木です。

寒い場所でも育ち、生長の早いカラマツは、北海道では明治時代から植えられるようになったそうです。現在、美幌町の人工林もカラマツが大半を占めています。

11月初旬。秋が深まる頃に、カラ

マツの林は黄金色に輝きます。博物館に隣接する「みどりの村森林公園」も金色に彩られ、晴れた日は青空とのコントラストが素晴らしい眺めです。また、風に乗って、はらはらと落ちてくるカラマツの葉は、まるで黄金色のシャワーのよう。その葉は道を埋め尽くすように降り積もり、やがて黄金色の絨毯（じゅうたん）ができていきます。

11月13日（水）と15日（金）に開催のプチ工房「木のカスタネット」では、カラマツの輪切りを材料にします。手作りのカスタネットを鳴らしながら、カラマツの絨毯を踏みしめてみれば、一味違った散歩が楽しめるかもしれません。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム



ちょい足しの アート

写真・文／久保田結衣



芸術は見る、聞く、体験することから、何らかの気持ちが動くことが肝（きも）だと思います。いざ行動しようにも、難しいと思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、石や落ち葉を持って帰って並べてみる、あるいは、それを額に入れてみると、不思議と「作品」に見えてきます。また、何の変哲も無い丸、四角に点を2、3個加えると、顔に見えます。配置を変えたり、さらに点の大小を意識すると、表情やメリハリなんかも出てきたり…！形や色の違いが、何か生き物の個性として見えてくるのではないのでしょうか。

異なる素材を組み合わせて、切り貼りし表現することを「コラージュ」、偶然できた表現の総称を「モダンテクニック」と呼びます。コラージュの起源は諸説ありますが、芸術の分野として確立させたのがジョルジュ・ブラッ

ク（1882-1963）やパブロ・ピカソ（1881-1973）とされています。前衛的な美術思想「モダニズム」中に見出され、切り貼りした写真に、木炭で文字や絵を描いて、表現しました。モダンテクニックは、インクをつけたビー玉を転がしたり、インクを乗せた紙を折り合わせるなどして、意図せずに来た絵画表現のことを指します。（博物館では、常設展示のジョアン・ミロのリトグラフ作品「題不詳」でモダンテクニックに近い表現に触れることができます。）

身近にある物は、アート作品の素に溢（あふ）れています。作品に意味や意図はなくとも、「あ、何かいいかも！」と思うものを作ると、とても楽しくなります。コラージュやモダンテクニックは、簡単に楽しめるアートなので、ぜひチャレンジしてみてください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



先月は、博物館講座で、シルクスクリーンのワークショップを行いました。版を作るところから始めましたが、作り終える頃には腱鞘炎に…。刷りも思うようにいかず、練習をして本番に臨みました。腕のなまりを感じ、学生時代から月日が経ったことを痛感しました。(久保田)